

平成26年度

24th

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

入 選 作 品

主催 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会
(栗原市、登米市、(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)
後援 宮城県、(一社)栗原市観光物産協会、(一社)登米市観光物産協会、
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、
河北新報社、読売新聞東北総局、朝日新聞仙台総局、
毎日新聞仙台支局
協賛 富士フイルムイメージングシステムズ(株)、宮城県写真材料商組合

入 選 者

各 賞	題	氏 名	住 所
最優秀賞 (宮 城 県 知 事 賞)	光を受けて	川 崎 淳 一	仙台市太白区
優 秀 賞 (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	夏の伊豆沼	菊 池 永	東松島市矢本
金 賞 (栗 原 市 長 賞)	サギたちの朝	窪 田 哲 夫	角田市角田
金 賞 (登 米 市 長 賞)	伊豆沼情景	鈴 木 宏 子	加美郡加美町
銀 賞 (栗原市観光物産協会会長賞)	朝 日 起 つ	根 本 弘 美	仙台市青葉区
銀 賞 (登米市観光物産協会会長賞)	さざ波のメロディー	横 澤 千 晶	多賀城市八幡
銀 賞 (宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)	映ゆる幻日	清 水 治 弘	神奈川県横浜市
銅 賞 (河北新報社賞)	ハス沼に舞う	小野寺 亨	栗原市瀬峰
銅 賞 (読売新聞東北総局長賞)	目覚めの時	森 谷 勇	塩竈市千賀の台
銅 賞 (朝日新聞仙台総局長賞)	連 雁 落 日	日 野 俊 文	宮城郡七ヶ浜町
銅 賞 (毎日新聞仙台支局長賞)	孤影～S・o n e～	狩 野 博 美	登米市迫町
入 選	雁行と栗駒山	蛭 田 敏 夫	登米市中田町
入 選	使 者 冬 来	遠 藤 武 蔵	仙台市太白区
入 選	月下のざわめき	遠 藤 一 治	仙台市泉区
入 選	外来魚駆除	土 井 祐 之	栗原市栗駒
入 選	静穏、永久に・・・	三 浦 明 彦	登米市中田町
入 選	夜 明 け	神 山 日出夫	石巻市中里
入 選	酷寒に舞う	福盛田 弘	岩手県花巻市
入 選	凍れる朝 (しばれるあさ)	大 友 誠	黒川郡富谷町
入 選	でっかいレンコン 掘れたぞー!	庄 子 源 六	仙台市若林区

総 評

今年初めて「伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト」の審査をやらせていただき嬉しく思います。以前から伊豆沼・内沼のマガンの飛翔にはとても興味がありました。今回、審査のご依頼をいただいてから伊豆沼・内沼の素晴らしい風土と自然の作品を拝見できることに胸を躍らせて作品を待っていました。

私も何度か伊豆沼の早朝に足を運んだことがあるのですが、今回ご応募いただきました皆さんの作品から、強い刺激を受けました。マガンの飛翔はもちろん、ハクチョウやシラサギの作品も素晴らしく、伊豆沼・内沼のもうひとつの代名詞でもあるハス絡みの作品も見応えがありました。こんなにもドラマチックで美しい場面がここにはあるんだという熱い熱意も伝わってきました。

フォトコンテスト審査員 井 村 淳 (いむら じゅん)



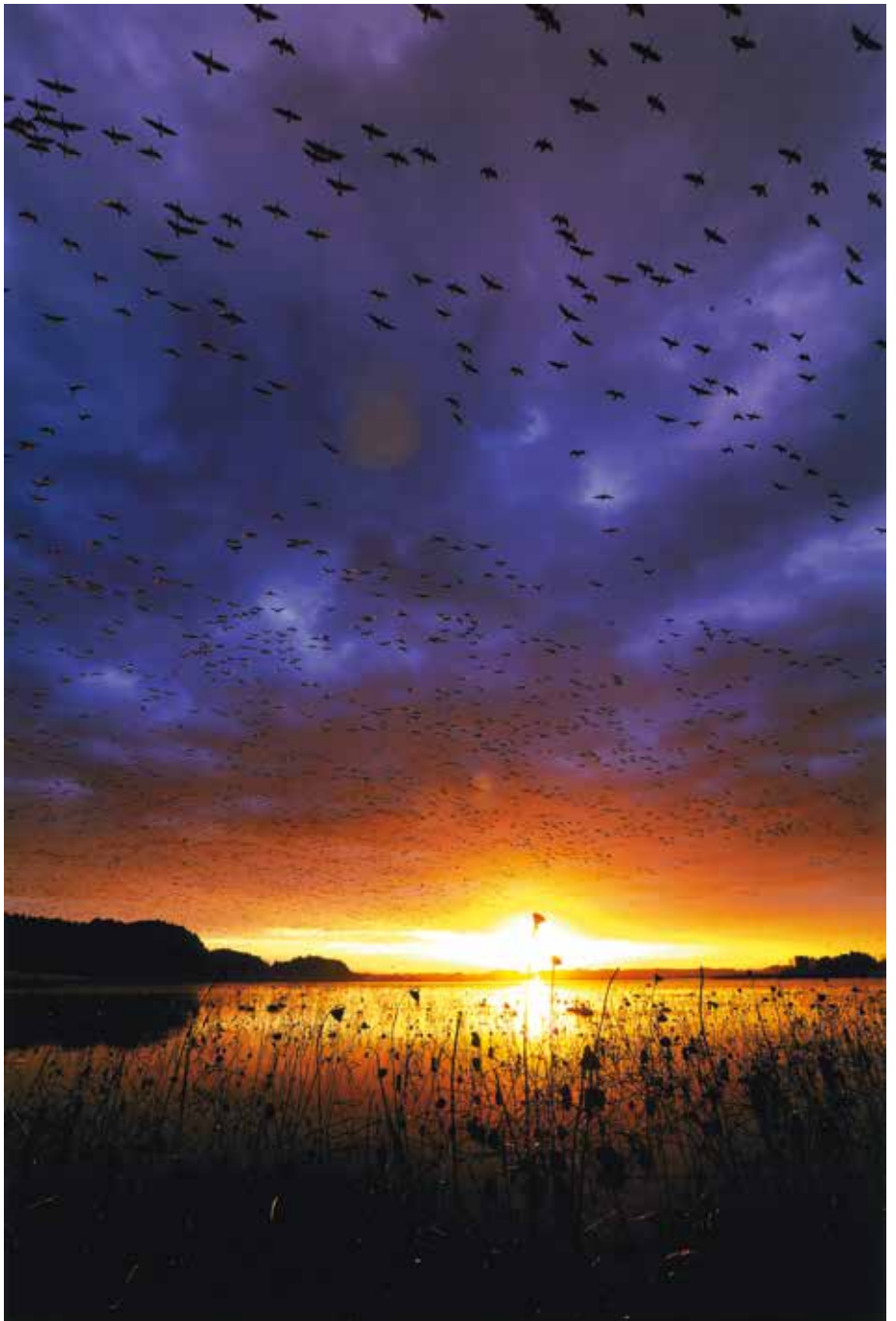
1971年生まれ。横浜市在住。
日本写真芸術専門学校卒業。
竹内敏信氏の助手を経てフリーになる。
サバンナの動物を中心に世界の野生動物や日本の自然など「野生」を求めて活動。
(社)日本写真家協会会員。チーター保護基金ジャパン名誉会員。キヤノンEOS学園講師など。
著書『大地の鼓動』『あざらしたまご』他。

ホームページ
(J's WORLD Nature Photographer Jun Imura's website)

最優秀賞
(宮城県知事賞)
「光を受けて」

川崎 淳一

【評】 とても神々しくドラマチックで目を引きつけられました。空のほとんどが雲に覆われている中、東の雲の隙間から入り込んだ朝日が美しい瞬間です。そのタイミングで一斉に飛び上がったマガンの群れを縦位置構図で切り取り高さとお行き感を見せたのも素晴らしいです。日が当たらない紫色の雲を背景にマガンの翼が金色に光っているのが印象的です。更に沼には、枯れたハスのシルエットを取り入れた画面構成がお見事です。



金賞 (栗原市長賞)
「サギたちの朝」

窪田 哲夫

【評】 黒バックに浮かぶ白いサギの形がまるで配置したかの様なバランスの取れた構図で面白いです。水面の映り込みもあり、実像と虚像によるリズムカルなシンメトリーが切り取られています。サギとの露出差を使い背景を黒く落とした見せ方が功を奏しています。また、並んでいる9羽全てがシャープにとらえられているのも良いです。





【評】 大きなハスを広角レンズで接写したのでしょう、とてもインパクトがある作品です。花をただ単にアップにしてみると周囲の風景が見えなくなってしまうところ、広角レンズの画角を利用し、背景を見せることで伊豆沼らしい広がりが見せられました。主役のハスの花はきれいに咲いているものをちゃんと選び、シャープな描写で立体感が強調されているのも良いです。

金賞（登米市長賞）「伊豆沼情景」

鈴木 宏子



【評】 空一面を覆うマガンの飛翔が実にインパクトがあります。手前の空から奥まで隙間なくマガンが飛び交った絶好のシャッターチャンスをとらえています。太陽の輪郭もしっかりととらえて露出の設定も良いです。欲を言いますと、もう一段速いシャッターに設定すると手前よりのガンもシャープになり印象がより強くなると思います。

銀賞

(栗原市観光物産協会
会長賞)
「朝日起つ」

根本 弘美

【評】 日の出直前の東の空に伸びるサンピラーですね。とても冷え込んだ朝だったのでしょう。その寒さを感じさせない真っ赤な水面と、赤色から紺色に変わっていく空のグラデーションが美しいです。また、真っ赤な水面を泳いでいるハクチョウのシルエットが絶妙なタイミングでとられています。



銀賞

(登米市観光物産協会
会長賞)
「さざ波のメロディー」

横澤 千晶

【評】 水面に映り込んでいる赤色は夕日でしょうか、さざ波の縞模様を望遠レンズの圧縮効果を使い、背景に引き寄せた画面づくりが面白いです。この時間特有の青さとの対比がより幻想的な雰囲気をかもし出しています。ただ、暗くつぶれ気味のハクチョウを明るくする処理がもう少し丁寧だとなお良かったです。



銀賞

(宮城県伊豆沼・内沼
サントクチュアリ友の会
会長賞)
「映ゆる幻日」

清水 治弘

【評】 タイトルを見ますと、幻日という大気光学現象があったんですね。それが水面に映り込んだところをハクチョウのシルエットと切り取ったのが面白いです。滅多にない現象そのものに目を引かれるのではなく映り込みを見つけたのが大発見でした。周囲の枯れたハスの茎と映り込みの線の模様も面白いです。

銅賞（河北新報社賞）
「ハス沼に舞う」

小野寺 亨



【評】ハスの花が咲く沼に舞い降りて来た真っ白い天使の様な存在感があります。翼を広げ、きれいな扇形の瞬間が良いです。また、逆光でねらっているのが翼が光を透かし、暗めの露出設定にすることで、より輝いて見えます。サギの動きと光線の決定的瞬間をとらえています。

銅賞（読売新聞東北総局長賞）
「目覚めの時」

森谷 勇



【評】太陽が水面と氷の上に長くオレンジ色の光を伸ばした先に、飛び立とうと助走をはじめているハクチョウのシルエットを重ねた素晴らしい構成です。上下に雲があるので雲間から太陽が顔を出した一瞬のタイミングに飛び立つシャッターチャンスをとらえたのが素晴らしい。

銅賞（朝日新聞仙台総局長賞）
「連雁落日」

日野 俊文



【評】ある程度の長い望遠レンズで日没前の赤い太陽を大きく引き寄せ、ねぐらに帰って行くガンの群れをシルエットで重ねた雰囲気のある作品です。的確な太陽の露出やピント位置、タイミングなど、それなりに技術が必要とする場面ですがどれもうまくとらえられています。

銅賞（毎日新聞仙台支局長賞）
「孤影～S・one～」

狩野 博美



【評】撮影場所不明？朝か夕か
きれいに焼けた空と水面の映り込みによるシンメトリ一の画面が美しいです。上下を1：1でねらっているのが画面に緊張感があります。広い空間にぽつんと小さくハクチョウのシルエットにとらえることで孤独感や哀愁を感じます。全体の構成が実にすばらしいです。

入選「雁行と栗駒山」

蛭田 敏夫



【評】栗駒山を背景に一齐に飛び立ったガンの群れを望遠レンズでぐっと引き寄せた動感にあふれた作品です。羽ばたくガンの動きを高速シャッターで止め、ピントも良くシャープです。また、順光でガンの体がきれいに描写されています。

入選「使者冬来」

遠藤 武蔵



【評】青い光の中をハクチョウの群れが飛んで行く姿を流し撮りで見せた妖艶な作品です。背景はシンプルなところを選んでるのでハクチョウがきれいに浮かび上がって見えます。また、流した背景が細かい縞模様になったのもきれいです。

入選 「月下のざわめき」

遠藤 一治



【評】 月明かりでとらえるという面白い発想です。青く染まった水面と白いサギのコントラストが美しいです。月明かりの中でもサギは水の中で活動しているのですね。スローシャッター中に動いたサギの首が透けているのも面白いです。

入選 「外来魚駆除」

土井 祐之



【評】 獲物を捕らえた自慢気なサギの表情が良いです。何でも食べてしまうギャングとも言われるブラックバスを手玉に取った凛々しさを感じます。固有の生態系を破壊してしまう外来魚から沼を守っているという比喩的なタイトルも面白いです。

入選 「静穏、永久に…」

三浦 明彦



【評】 逆光に輝く水面の中を泳ぐ二羽のハクチョウが、明るめの露出設定により、さわやかで楽し気にとらえられています。枯れたハスは、わびさび的なやや暗めの演出に使われがちですが、ここでは、それさえも楽しいアイテムに見せているのが面白いです。

入選 「夜明け」

神山 日出夫



【評】 真っ赤に空を染めながら昇って来た朝日をバックに、一斉に飛び上がったガンの群れを暗めに見せることで不気味な力強さになりました。また、シャッターチャンスのみならず、前景のススキから空一面に飛び交うガンを入れた構図が良いです。

入選 「凍れる朝(しばれるあさ)」 大友 誠



【評】 羽ばたくハクチョウの口から白い息が漏れる寒さを感じる場面です。暗い背景に逆光でねらったことで息がきれいにとらえられています。また、翼も光を透過してとてもきれいです。プリントの際に少しコントラストを上げると更に印象的になると思います。

入選 「酷寒に舞う」

福盛田 弘

【評】 朝の光でオレンジ色に染まった伊豆沼からガンが飛び上がり、横へ飛んでいくところと水面にいるガンをバランス良くとらえたうまいフレーミングです。そして、水面から上がるモヤがとても幻想的な雰囲気を作っています。



入選 「でっかいレンコン掘れたぞー！」

庄子 源六



【評】 腰までどっぷりと沼に入り、レンコンを引き抜いた直後のうれしそうなお顔をうまくとらえています。画面には人物は一人しか写っていませんが、水際にいる出番待ちの人が、見物人を水面の映り込みだけで見せた面白い構図です。